

---

# 薄情な恋

雨雨

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

薄情な恋

### 【著者名】

雨爾

N Z 8 8 2 8 N

### 【あらすじ】

薄情な女がある日見た夢。

(前書き)

お話をなつてこらがどうか陥じこですが、読んで頂けるとありがたいです。

ああ、これは夢だ。

私はすぐに分かった。

もう顔も思い出せなかつたあの人がいるのだから。

私を、私の体を愛しげに這う手。

頭をなでて、耳をくすぐり、頬を撫でて、首筋を辿り、腕に滑らせ、指先を絡ませる。

昔と同じ手順で、私を触る手。

安心する。

それと同時に恐怖も感じる。

私の全てを食おうとよくなその眼が怖い。

私の体を辿る乾いた唇の感触。

舌をくるりと回して、湿らせてから、私の唇へ。

私の心を覗き込む様に見つめながら。

体から力が抜ける。

けれど同時に心が固く強張る。

その真剣な瞳が恐い。

あの人求めるもののが、わかっていたけれど、私は『える』ことができない。

…出来なかつた。

私はあの人気が好きではなかつた。

好きだと言われ、流される様に恋人になることが嫌で断つた。

なのに、自分の都合で掌を返すように付き合つことにした人だつた。

この人の方がましだと。

そんな人だつたから、夢に見るまで思いだせなかつた。

ああ、こんな顔をしていたつけ。

触れられながら、見つめられながら、私はそんな感想しか出てこ

ない。

あの人があの左手の薬指に唇を寄せながら聞いてきた。  
「指輪、ほしい？」

私の左手の薬指に口付けながらじっと見つめるあの人。  
あの人を見つめられると、嬉しさと同時に、いつも怖さを感じていた。

何もかもを絡め取られる、そんな気がいつもしていた。  
私は心の中で答える。

“ほしくない”

目が覚めた。

ほら、顔が思い出せなくなっちゃった。

私にとって、あの人はそんなものだったんだろう。

私は私を愛してくれる人を失った。

あの人があの人を愛していない人を失った。

失ったものの大きさは、私とあの人、どちらが大きかったんだろう？  
そんなもの、いうまでもない。

だから私は、今も一人。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8828z/>

---

薄情な恋

2011年12月27日20時54分発行